

会議記録

会議名称	第9回 杉並区NPO等活動推進協議会
日時	令和6年9月10日(火) 午前10時03分～午前11時25分 (休憩：午前10時44分～午前11時03分)
場所	分庁舎 3階 会議室
出席者	委員 山岸、加藤、杉本、井上、荻上、佐藤、今井 区側 区民生活部長、地域課長、協働推進係長、協働推進係職員 オブザーバー 企画課公民連携担当課長、企画課公民連携担当係長、 企画課公民連携担当職員、杉並ボランティアセンター所長、 すぎなみ協働プラザ運営責任者
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 別紙1 協働提案実施事業の中間評価について 別紙2 杉並区協働提案実施事業 中間評価表【令和5・6年度実施事業】 資料1 協働提案書 資料2-1 令和5年度協働提案実施事業計画書 資料2-2 令和6年度協働提案実施事業計画書 資料3-1 収支予定書(令和5年度) 資料3-2 収支予定書(令和6年度) 資料4-1 及び4-2 杉並区協働提案事業評価表 中間評価(事業1年目) 資料4-3 及び4-4 杉並区協働提案事業評価表 中間評価(事業2年目) 資料5-1 令和5年度協働提案実施事業報告書 資料5-2 令和6年度協働提案実施事業報告書 資料6 収支報告書(令和5年度) ・プロに学ぶ「吹奏楽ワークショップ」2024春休み特別レッスン ・吹奏楽ワークショップ(2023年4月作成) ・2023年度プロに学ぶ吹奏楽ワークショップ実施報告書 ・NPO法人すぎなみ子どもサポート2023年度活動報告 【当日配布資料】 ・団体作成プレゼン資料 プロに学ぶ「吹奏楽ワークショップ」～協働提案事業のご案内～
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 協働提案実施事業の中間評価について 3 協働提案実施事業(令和5年度・6年度実施)提案団体・担当課からの事業報告

	<p>プロに学ぶ「吹奏楽ワークショップ」 提案団体：特定非営利活動法人すぎなみ子どもサポート 担当課：教育委員会事務局学校支援課</p> <p>4 評価についての意見交換 5 閉会</p>
--	--

○会長 皆さん、おはようございます。お時間になりましたので、第9回杉並区NPO等活動推進協議会を開催したいと思います。9月になりましたけれども、相変わらず残暑が厳しい日々が続いておりますが、皆さんどのような夏をお過ごしになられたでしょうか。地震や自然災害等、本当に大きな課題を突きつけられたような、そんな夏でもあったと思います。

それでは、会議のほうを進めていきたいと思います。残念ながら、本日、副会長がお休みとなります。では、議事に入る前に、事務局から配布資料の確認等をお願いします。

○地域課長 皆さん、おはようございます。まず、資料の確認からさせていただきます。

事前に送付させていただいているものが資料1から6までございまして、資料1、協働提案書、資料2、事業計画書、事業1年目、2年目ですね。あと、資料3で、収支予定書、これも、事業1年目、2年目。資料4で、中間評価、こちらも事業1年目、2年目です。次に、資料5、事業報告書、こちらも事業1年目、2年目。最後に、資料6で、収支報告書、事業1年目ですね。

それ以外に、今日、席上配布させてもらったものが、次第の、少し誤りがあったので差し替え分が置いてあります。また、別紙1で「協働提案実施事業の中間評価について」というもの。別紙2で「杉並区協働提案実施事業 中間評価表」。そのほかに、記入用の中間評価表のA3サイズのもので置いてあると存じます。そして、最後に、今日の事業者からのプレゼンの資料を、スライド形式で全部で9ページの資料がございます。

資料のほうは、不足はございませんでしょうか。

(該当者なし)

○地域課長 はい。

そして、先ほど会長のほうからご連絡ございましたとおり、副会長は今日のご欠席でございます。

以上でございます。

○会長 はい。ご説明ありがとうございました。それでは、議事に移ります。

本日、協働提案実施事業の中間評価を行いますので、事務局から説明をもう一度お願いいたします。

○地域課長 はい。では、本日の中間評価の目的についてご説明いたします。別紙1をご覧ください。

令和5年4月から本年7月までの協働提案実施事業の取組について、本協議会が評価を行

い、事業の成果を確認するものでございます。事業の評価でございますが、事前送付している資料1から6による書類審査及び本日のプレゼンと質疑応答を併せて評価を行っていただくものでございます。

次に、本日の進行についてご説明いたします。

この後、提案団体と担当課による事業報告が10分、その後、委員との質疑応答15分を予定してございます。質疑応答の後、15分間休憩を取りますので、この間に委員の皆様が中間評価表をご記入いただきまして、事務局で集計作業を行います。休憩後、事務局から集計結果と評価をお伝えいたします。評価は事業全体の平均点に応じた、1から5の5段階とします。その後は委員の皆様で、評価できた点、評価できなかった点、今後期待したい点について意見交換を行っていただきます。評価の方法につきましては、お手元の中間評価表と別紙1をご覧ください。

評価項目ごとに5段階で評価点をつけていただくとともに、コメントにつきましても記入をお願いいたします。記載していただいたコメントを基に、事業報告後の意見交換をします。中間評価における本協議会としての評価及びご意見につきましては、担当課及び提案団体へフィードバックするほか、区の協働推進部会へ報告いたします。

事務局からの説明は以上となります。会長、進行をお願いいたします。

○会長 はい。ご説明、ありがとうございました。

皆さんから、何かご質問等ありますでしょうか。

(なし)

○会長

それでは、提案団体、担当課の皆さんをお呼びしたいと思いますので、よろしくお願います。事業名は「プロに学ぶ『吹奏楽ワークショップ』」、提案団体は特定非営利活動法人すぎなみ子どもサポートの皆さんとなります。担当課は、教育委員会事務局学校支援課となっております。

(提案団体及び担当課入室)

○会長 事前にご説明ありましたとおり、団体からの事業報告は10分、私たち委員からの質疑は15分となります。また、終了時間は、事務局で合図をさせていただくこととなります。ご準備はよろしいでしょうか。

それでは、どうぞよろしくお願いたします。

○すぎなみ子どもサポート はい。すぎなみ子どもサポートでございます。よろしくお願

いたします。

上の番号の1ですね、協働事業の狙い。中学校の部活動の中で最も複雑系と言われている吹奏楽では、生徒の減少で合奏自体が難しくなったり、先輩が後輩を教えるという伝承が途切れつつあるというのが実態です。そこで、教員に負担をかけないで、官民協働で子どもたちをより高いレベルで学べる場、つまり楽器の基礎から大勢での合奏体験まで、これをプロから学ぶ場ですね、これを提供するというプロジェクトです。

次に、目指すものですが、本件は学校部活動地域移行の流れに先立つ形で実施していますけれども、それを超えて、生涯学習につなげていくことを目指しています。参加した生徒は、卒業して高校生になっても継続参加しています。

次、3のところですが、ここは下のところで、教員の負担についてだけ申し上げますが、指導の三つ目にありますね。ここ、楽器ごとに異なる基礎の指導を受けるということは、個別楽器に精通しているわけではない、吹奏楽部の顧問の先生方へのサポートになります。そして、その下、コンクールや区の行事と異なりまして、教員の引率は不要になっています。さらに、申込みも、二次元コードで保護者が直接NPOに申し込める仕組みにいたしました。

次の4ですが、特徴。最初の①から⑤までが、2年前の提案の段階で掲げたもので、これは全て実施いたしました。①ですが、先月20日から始まっているワークショップでも、応募者が67人いるんですけれども、ホルンが2人、バスクラリネットが1人、そしてフルートが18人という、極端にアンバランスな楽器の構成です。一般的には、楽譜に合わせて定員を設けまして、上手な生徒から選ぶということですが、私たちは全く逆でして、希望者全員を受け入れて、参加者構成に合わせて編曲、つまり楽譜のほうを直します。初級者には、初級者用の楽譜も作ります。徹底した一人一人の生徒本位ということです。③が、この冊子ですね、「吹奏楽ワークショップ」というこの、先生たちが何を言っているかということをもとめたものですが、これは各学校の先生方にお届けいたしました。それから、⑤のレポート、これ、お手元にあるのが春の分ですが、このレポートは、練習の都度、毎回、保護者など関係者の皆さんに発信して、年度末に、この白い、少し厚い実施報告書というものをお届けしています。これは、学校や地域を含めて多くの皆さんに共感していただく努力、この一環でして、私たちは非常に大事にしています。

次の段が、1年度目の追加施策。ボランティアの方を含めて、毎回、短時間で、立ったままでミーティングを行いまして、出た意見を取り上げます。その一つが、保護者見学会

の実施です。前年度は2日間で27人が参加しました。また教育委員会のおかげもありまして、当初は懐疑的であった顧問の先生方の19人が見学に来てくださるようになりました。3段目のところ、これが、今年度に入ってから追加施策として、生徒の自主性、これに意を用いています。各パートの上級生がパートリーダーとなりまして、講師と相談しながら練習を進めています。パートリーダーは練習後のミーティングにも参加して、必ず一言述べるようにしています。それから、参加している高校生の中の希望がありまして、この春からボランティアで受付などを手伝うようになりました。また、もっと生徒同士の交流の機会が欲しかったという声が出ておりましたので、1日1コマ、2コマ、午前と午後で、昼ご飯をみんなで一緒に間で食べるという練習日を設けました。従来、教員の皆さんからは、今の生徒は長い時間一つのことをやるのは無理だと言われていましたが、類似のプロジェクトを行っている大田区文化振興協会、これは区と一体なんですけれども、全額、区が出しまして、7校だけ集まってやっている。ここの情報交換の中で、1日、通しの練習をしていることを知りました。練習の見学にも参りまして、むしろこれはプラスだなと判断して、安心して実施することにしたものです。

次の2ページが、写真ですので、ちょっとスキップをいたしまして、後でご覧いただきたいと思います。

6、開催状況です。参加生徒の数は計画の120.5%です。開催回数は、今年度、計画より2コマ増やしました。パート練習を増やしてほしいという、強い要望があったからです。また、生徒数増とコマ数増に合わせて、講師を増員しました。ちなみに先月20日の講師1人当たりの生徒数は3.47と、1対3.47という、少数でやっています。

さらに、フリーの演奏家の1コマの謝礼を8,000円から1万円としたことで、予算総額を超過しました。下から2段目ですね。で、これをどうしたかといいますと、NPOに、このプロジェクトに賛同して下さった個人の方々から寄附を頂きました。これでカバーをいたします。生徒の参加費はあくまで1コマ1,000円以内、計画は大体700円台になっていますけど、そこに抑えられるように運営しております。

それでは、区のほうでお願いします。

○学校支援課 代わりまして、教育委員会事務局の学校支援課です。

学校支援課は、教育委員会の部活動の地域移行を所管している部署になりまして、運動部活動や吹奏楽部の地域移行について検討しています。今回、本事業について協働の評価という視点で発表させていただきます。

吹奏楽は、学校施設・楽器の確保、それから多種多様な指導者の用意、また、それをつなぐコーディネーター、今、すぎなみ子どもサポートさんが実施しているような、人と人をつなぐお仕事。それらを総合的に組み合わせて、初めて芸術的な場を提供できるというものになっております。

今回、ワークショップでNPOと教育委員会は、資料のような分担で、共に取り組んでまいりました。NPOの皆さんは強力な人的ネットワークを用いて運営をしてくださいました。代表の方のコーディネートにより、指揮者、それから作曲家、指導者を確保していただきました。また、当日は、指導者だけではなくて、例えば受付から会場の設置、それから生徒の誘導など、様々な業務を支援いただくボランティアが必要になってきます。そういった運営ボランティアも多種多様なメンバーを用意いただきました。さらに、区民の皆さんが実行委員会形式で実施している荻窪音楽祭ともつながりがありまして、ワークショップとしての発表の場も確保いただきました。

我々教育委員会としては、こうした芸術的な場の土台の構築という役割を担っておりまして、例えば学校施設の確保、それから楽器の確保及び管理、それから地域移行過渡期に当たる現在だからこそ大切な、学校現場の教員の先生方からの理解を進めていく、部活動を地域に開いていくことの浸透というところを担ったものでございます。これらの役割分担により、右手側でございますが、充実した文化的機会を生徒に提供することができたということを協働の評価としてございます。

めくっていただいて、これは2か年度の事業になっておりまして、今年度はまだ下期に複数、練習と発表の場がございます。我々として課題に挙げているのは、学校施設や楽器をさらに有効に活用していくこと。それから、教員や保護者、学校部活動というのを地域に開いていくことに関して、さらなる理解、浸透を進めていくということです。

実態として、学校施設の使用には注意が必要です。それは、生徒の個人情報が入っていることや、使用した後に物が紛失するなどのリスクがあるからです。そういった課題がある中で、我々には、学校施設、楽器をしっかりと丁寧に利用することと、安心・安全に使用することを教員や保護者の方に理解してもらおうということが必要になります。引き続き丁寧に対応してまいりたいと考えております。

最後、赤い矢印のところに書きましたが、部活動の地域移行というのは、非常に大きなテーマになっております。今後も、NPOさんのノウハウ、まだまだ教えていただいて、議論を深めていきたいと思っておりますので、「NPO、教育委員会間で情報交換、議論を進

めていく、深めていく」ということを最後の締めにさせていただきました。

協働の評価は以上になります。

最後に、ワークショップの当日の映像を1分程度、お時間を頂いて、流させていただきますので、ご覧ください。

(動画上映)

○すぎなみ子どもサポート どうもありがとうございました。

○学校支援課 ありがとうございました。

(拍手)

○山岸会長 はい。団体の皆さん、また、担当課の方、ご説明、ありがとうございました。

それでは、ここから15分間、委員による質疑応答を行っていきたいと思いますが、まず初めにご発言のある方、挙手にてお願いいたします。いかがでしょうか。お願いします。

○委員 どうもありがとうございました。よろしくお願いします。

それで、頂いています中間評価1年目、2年目の、それぞれ提案団体と所轄課の評価を拝見させていただきましたけど、やはりCという、「どちらともいえない」というところが何か所かありまして、多分よく出てきているのは、行事日程とかそういうところ、要するに各学校との調整の部分なんですかね。あるいは、練習場所とか、そういったものの確保という、先ほどのこのプレゼンで言うと、土台に当たる、所轄課のほうで担当されている部分だと思うんですけど、そういったところがなかなかうまくいかなかったというようなことなのかなというふうには拝見しているんですけど、その辺り、具体的にやっぱりどういう問題があったのか、あるいは、それで1年やってみて、2年目に向かってどういうふうになってきているのか、その辺が多分今回の協働事業の一番の課題になるところだと思うので、もう少し詳しくお話ししていただけるとありがたいと思います。

○学校支援課 私からお答えします。

吹奏楽で学校を使う際、パートごとに部屋を取ることでありますが、十数部屋の部屋数が必要になってきます。普段開放しているアリーナだけでは足りないため、学校長、副校長先生に協力を依頼して、色々な部屋を取りに行く。そうなってくると、学校の負担も非常に増えてしまう。さらに、お借りする部屋に個人情報がないのかというチェックも必要であり、複数の部屋を活用する本事業で学校施設を活用することはハードルが高いものです。

解決策として、地域の方が入るエリアをハード面で区分けるなどの方法はありますが、

そういう対応には時間がかかります。今、我々は、このワークショップが、安心して施設を貸し出せる事業であること、生徒に対してすばらしいものを提供できる事業であることを、校長先生、副校長先生を含めてどんどん周知して行って、この事業だったら協力するよとっていただけるような、そんな取組にしたいと思っています。今、NPOさんのほうで作っていただいている事業報告などを活用して、周知を図っていくことを具体的な対応と考えています。

○委員 はい。ありがとうございました。多分、これを端緒にして、いわゆる学校3部制という、単に学校を教育だけではなくて、地域のいろんな活動に開いていこうという方向性に大きく関与するところだと思いますんで、ぜひ、そっちの方向でいろいろやっていただければありがたいと思います。

以上です。

○学校支援課 ありがとうございます。

○会長 はい。ありがとうございました。

そのほか、いかがでしょうか。お願いします。

○委員 中学校の部活動の地域移行の試行を協働事業提案という仕組みを利用して実施していただいたわけですが、NPOの方たちと教育委員会の役割分担、パートナーシップがすばらしく、協働事業の理想型じゃないかと感じました。子どもたちや保護者の感想などから、家族も子どもたちの成長を見守り、子どもたち自身もメンバーの中で育っているということが読み取れました。すばらしい事業だと思いました。これをきっかけとして、学校という枠をも超えた地域文化の創造に向けて、どんどん歩みを進めて行っていただきたいと思いました。これが感想です。

質問1点なんですけれども、子どもたちの参加費の1,000円。そのことについては、どのような形で算出されているのか、やはり今後もこの参加費1,000円というのはそのままいかれるのかどうかということをお聞きしたいと思います。

○すぎなみ子どもサポート もともと学校部活動から始まっていますから、教育委員会なり区と一体でなければ、到底、成り立つ仕事ではございません。このNPOは、運営ノウハウはあるんですけど、お金がない、少人数のNPOですから。で、今は、1,000円以内とっていますのは、今は、さっきちょっと申し上げましたけど、生徒負担が、1回で言うと、昨年度で言うと766円なんです、1回当たりが。これ、3時間やっていますから、1時間で言うと、255円。これは全部集めたお金を割っていきます。区が出しているのが大体75%に

なりますね。で、残りの部分が何かというと、NPOが、自分たちの残っているお金と、あと先ほどの寄附ですね。この寄附というのはやっぱり大事なことでして、地域の方々に分かっただいて、少しずつ個人の寄附というのを集めて、裾野を広げていって、応援団というか、ファンを増やすというのも大事なことだとは思っています。やっぱり、1人、1回1,000円を超えていくと、7回、まあ、私たちが今8回やっているんですけど、8コマやると8,000円と。ちょっと違うだろうというような気持ちがあるので、やっぱり今ぐらいのところで何とか抑えるように運営をしていくと、考えております。

○委員 ありがとうございます。

○会長 よろしいでしょうか。

ほか、いかがでしょうか。はい。お願いします。

○委員 ほかの委員もおっしゃったように、部活動の地域移行が、とても大きな課題を抱えている中で、NPOと行政がうまくタッグを組んで、このような形で、しかも吹奏楽。

単独校でやるのは、課題もいっぱいあると思いますが、そこをうまくコーディネートされているというこの進め方は、非常に、他の部活地域移行でも模範になるのかなという気がしております。

今年度2年目で、あと少し残すばかりで、それ以降のことについてもそろそろ考えていかなければいけないことだと思うんですけども、学校支援課のほうで、協働事業として終わった後どのように展開させていこうとお考えなのかということ。それから、この吹奏楽という取組を皮切りに、今後、他の種目の部活に対してどのように進めていこうとお考えになっているのかということとはちょっと伺いたいと思います。

○学校支援課 ありがとうございます。

ワークショップは、協働提案事業としては今年度で終了してしましますが、所管課としては、できれば協働という形で、来年度も実施できるように準備をしたいと思っております。何分予算が関係してくるので、お約束ができるものではありませんが、我々の思いはそういったところです。

また、吹奏楽部全体の地域移行という視点では、平日の練習の場をどうしていくのかということも、一つの大きい課題でございます。現在、教員が見る部活動とこういったワークショップという貴重な機会が相互に補完し合う形で、生徒に充実した場を提供しています。教員が担う平日の練習を今後どうしていくのかということも、NPOさんと議論していきたいと思っております。

もう一つ、部活動は他のものもありますというお話ですが、おっしゃるとおりでして、少子化、小規模化の影響というのは、スポーツも同様に影響を受けております。来年度、中学校3校で、サッカーや野球などを、一緒に活動する拠点校方式の合同部活動というものを実施していこうと、準備をしているところです。吹奏楽だけではなく、スポーツのほかも、そういった形で、スポーツ、文化の場を提供していきたいと考えております。

以上になります。

○委員 ありがとうございます。ぜひ継続していただければと思いますので、その相互補完というか、校内で練習して、休日にみんなで集まって、専門家さんの指導がもう少しスムーズにと、今度3年目以降、なっていくことを大いに期待しております。ありがとうございます。

○学校支援課 ありがとうございます。

○会長 はい。

お願いします。

○委員 すばらしい活動に感動しております。ありがとうございます。

まず、この、本当に形式的な質問なんですけど、このパンフレットというのは、事前にお送りいただきました、「プロに学ぶ吹奏楽ワークショップ」、これの、協力というところに高円寺学園、天沼中。ちょっと私が聞き落としてしまったかもしれないんですが、これは場所だけの問題ですか。それとも、そこの生徒さんのみの活動ということですか。天沼中学と高円寺学園のみですか。

○すぎなみ子どもサポート 先ほどのお話のように、場所を借りるのはすごく大変なんです。そこで非常に協力を頂いているというのが一つです。そのために、休みの日に先生が出てきてくださったりしています。

もう一つは楽器です。大きな楽器って、これ、みんな背負ってくるというわけになかなかいかないです。例えばティンパニとか、あるわけですが、大きな楽器は。それは全部そこで拝借しております、そういう意味では、場所に本当に感謝している。で、前は場所を転々としていたんです。これは物すごく大変なことでした、今回、夏にやっているのは、全部、高円寺学園で一貫してできるようになりました。これは、よそから借りた楽器であれ、使っていない楽器を借りたときにも、置きっ放しにもできる。そういう意味では本当に感謝していただき、協力していただいています。

○委員 はい。じゃあ、場所という概念ですね。

○すぎなみ子どもサポート 場所です。はい。

○委員 はい。すみません。

それで、あと、もう二、三あるんですけども、資料の3ですかね、3-1と3-2を比較しますと、今の楽器の運搬ということで、そういった意味で、資料3-1の支出のほうですね、使用料及び賃貸44,000円、楽器運搬費というものがありませんでしたが、それはなくなったということですね。今のお話、2年度のほうはなくなっていらっしゃるようだったので。

○学校支援課 楽器の運搬は、区側で対応するようになりました。教育委員会が、学校との信頼関係をしっかり図った上でお借りしてお返しするまでを一貫して対応したほうが、効率的に運営できることから、事業を見直したものでございます。

○委員 はい。ありがとうございます。

そして、また、その3-1と3-2を比較しますと、区の負担額が次の年のほうが大分増額されて、まあ、これは喜ばしいことだと思うんですけども、そういった理解でよろしければということと、重ねて言ってしまうと、2番目の収入の部のほうですね、当該事業による収入が、今年度と比較しますと、6年度と比較しますと、参加者が増えたからだと思うんですが、この、ちょっと細かいところで本当に恐縮なんですけど、夏と——ごめんなさい、夏-秋が7,000円、そして冬と春が2,000円。この差の違いは何でしょうか。

○すぎなみ子どもサポート この全体の数字は、1年目と2年目で、回数が全然違うんです。それは、春休みに、3月にやるか4月にやるかという、場所を借りたときにそのずれがありまして、2年目に移っちゃっているために、2年目に集中しているということがあります。

それから、参加者の、今、問題ですけども、これは、実際には7,000円で8回とか言っていますけれども、ここで半端なお金を取るわけにいかなくて、そうするとこれは1,000円以内だよねということであって2,000円にしている、で、もともと6回、6コマだつて5,000円でやっていたんですね。だけど、それが7,000円に、8コマで7,000円になったと、そういうことだけです。

○委員 あ、そういうことですね。コマ数。

○すぎなみ子どもサポート コマ数が違うというのがここに反映しています。

○委員 はい、分かりました。ありがとうございます。

そして、制作費のほうで、ちょっと、本当に細かい話ばかりなんですけど、前年と比較しますと倍になっていて、これは今見せていただきましたようなチラシがすばらしくて、

それはやっぱり白黒ではなくカラーでこそよさが伝わると思うんですが、この3回、令和6年については作られたというのは、やはり3回、そのシーズンに応じて募集をされているということでしょうか。

○すぎなみ子どもサポート そうです。集める回数が増えたということと、それから値段が、単価がちょっと上がっちゃったということですけども、基本的には割合安くできていると思います。

○委員 そうですか。

○すぎなみ子どもサポート 今お持ちの実施報告書というの、結構分厚い。こんなぜいたくなものを作ってという方もいるんですけど、これは200円なんですね。つまり、全部、ボランティアの人がデータで100%作った上で、印刷と、言わばインクとホチキスと紙だけお願いしているためにやっています。ですから、このチラシも安くできていると思います。

○委員 ありがとうございます。安くは見えませんが、すばらしいです。

○会長 はい。ありがとうございました。

お時間となっていますが、いかがでしょうか。

はい。お願いします。

○委員 今日のご発表いただきまして、ありがとうございました。私も協働の取組としてはすばらしいモデルになるようなものだと思います。その上で、2点ご質問させていただきたいと思います。

1点目が、ほかの委員の方からもお話がありましたけれども、部活動の地域移行——という言い方がいいのか難しいところがあるかもしれないですが——という観点で捉えたときに、今日のご発表の後半にもありましたけれども、教員や保護者、地域の理解について今後の課題のところにも書いていただいていたかと思います。学校が抱えるこの課題に関する取組をされている中で、今皆さんが具体的に取組まれているからこそその展望、この先はこういうことを取組んでいったらいいのではないかなど、どのようなことをお考えかお聞きしたいというのが1点目です。

2点目が、頂いている資料の最後のほうに、区立中学校参加生徒数の推移という数字も頂いております。この生徒の参加状況に関して、例えば会場になっている学校の子が多いみたいなことは何となく想像がつきますが、この参加する学校の生徒さんの数に関して、今後このような機会をより多くの区内の子どもたちに提供するという観点で、何か皆さん

が感じていらっしゃる課題、あるいはこういうことが必要だというようなところがあれば、お聞きしたいなと思います。よろしくお願ひします。

○学校支援課 はい。私からお答えします。部活動の地域移行という観点、学校の課題ということですね。

部活動の地域移行の目的は、生徒に持続的な文化・芸術の場の提供をというものと、もう一つ、教員の負担を軽減することです。教員の負担を軽減すると、日々の練習の指導というところに踏み込んでいくわけですので。スポーツ、運動部の場合、その指導を委託するとか、外部の指導者を配置するなどの対応をしております。吹奏楽はなかなかそういう動きが進んでいないところがあります。日々の練習に対して、外部の人材の力を得ることができないかというのを、事務局内部で検討しているところです。

地域は様々ございます。純粋に、地域人材という地域の方もいらっしゃれば、国のガイドラインだと、民間事業者、それから区、自治体も地域と位置づけられております。地域移行には多様な方法がありますので、その辺りを議論しながら検討していきたいと思っております。

○すぎなみ子どもサポート 私たちから見ると、今後の姿を一律にしてほしくないという思いがあります。学校の先生は個別楽器は詳しくないという方が多いんですけど、非常に熱心で、よく分かっている先生もいらして、自分たちだけで完結できる、そういうところもあります。今、30人以上のところというのも、3か所ですかね、ありますし、そこはそこでいいわけです。で、むしろ10人いるかいないかというところの生徒さんがここへ、先生も音楽の先生じゃないというような、そういうところが来ていると。これを一律に何かしてしまいますと、本当に一生懸命やっている先生のやる気が失われかねないという問題もあります。今も、学校の先生が3人ぐらい参加されているんです、二、三人。楽器を持ってきて一緒に吹いたりしてまして、それは歓迎しているんですね。私たちは学校のことに詳しいわけではないので。だから、熱心な先生がだんだんこういうところへ入ってくるというのは非常に好ましいと思います。

それから、実は、わずかな回数と言っていますけども、この今年度で言いますと年間40時間なんです。1回3時間とかやっていますから、40時間って、結構大きな数字でして、そこで基本的なことをきちっとオーソドックスに学びますと、学校ではそれぞれ個人練習を中心にやっていって合奏にできる。個別の指導をあまり手をかけなくてもできるようになるんじゃないかと思って。ちょっと回数だけで見ると、2回とか8回とかと言えますけども、

40時間というのは結構大きな数字だと思っています。学校の先生が参加してくれることを期待しています。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ほかはいかがでしょうか。ちょっとお時間のほうも超過してきておりますので、ご質問についてはここで一旦締めたいと思います。

それでは、お暑い中、すぎなみ子どもサポートの皆さん、また担当課の皆さん、ご報告、どうもありがとうございます。

○すぎなみ子どもサポート どうもありがとうございました。

○会長 ありがとうございます。

(拍手)

○会長 それでは、ここで一旦事業報告を終了いたしまして、休憩を取りたいと思います。15分の休憩を取りますので、ここで中間評価表のご記入をお願いいたします。記入が終わりましたら、事務局で一度回収いたしまして、集計を行います。

11時には再開したいと思いますので、その間、評価のほうをよろしくお願いいたします。お疲れさまでした。

(休憩)

(再開)

○会長 皆さん、評価のほう、また前半、お疲れさまでした。会議を再開したいと思います。

事務局から集計結果の報告をお願いします。

○地域課長 ご覧のとおり、総合評価で皆様の評価点の平均点が4.63点で、その評価で見ますと4.63ですので、A評価となっております。

以上でございます。

○会長 はい。ありがとうございました。

それでは、ご覧のとおり、非常に高評価となりました。その中でも、特に評価できた点や評価できなかった点、また今後期待したい点などを皆様からご意見を受け付けたいと思います。それでは、まず、おおよそ高評価でありましたけれども、とりわけこういったところがよかったんじゃないかというふうにしっかり記録として残しておきたい点、そういったところがありましたら、ぜひお聞かせいただければと思いますが、どうでしょうか。

よろしくをお願いします。

○委員 はい。ありがとうございます。

今回この取組でよい点だと思いましたが、1年目で出てきた課題に対して、きちんと2年目で改善しようというところ、その姿勢と具体的な取組について、NPOと行政側、双方が努力していたというところは、一つ大事なポイントだと思えました。

○会長 はい。ありがとうございました。改善点についてしっかり取り組んだというところを評価できるんじゃないかという、運営についてのご評価だったと思いますが、もう少しいかがでしょうかね、何かありましたら。逆に、全体的によかったからこそ、何かいろいろ言い表しづらいところでもあると思いますが、あえてというのも含めてお聞かせいただければと思います。

お願いします。

○委員 私は、評価項目7番の、「事業を通じて、他の団体や組織等々のネットワークが広がっているか」、ここをもう少し上げれば、さらに評価が上がるというか、広がりを見せてくる。ほかの委員の方もおっしゃっていたように、音楽にとどまらないというか、そういう面を、ぜひ、ノウハウを他の面にも生かしていければ、よりすばらしくなると感じました。

○会長 はい。ありがとうございました。この辺りは今後期待したい点に対するご意見かなというところで置いておきたいと思いますね。はい。どうもありがとうございました。

もう少し、いかがでしょうか。

○委員 はい。そうですね、よかった点としては、やっぱり部活動の形をこういうふうに変化させていくというところは非常に興味深いなと思っていますし、これから必要になる点を進めていくというところで、吹奏楽がまずということだと思うので、すごくそこは評価できる点かなと思っています。

○会長 はい。ありがとうございます。本当に、この昨今の学校を取り巻く少子化やそういった、先生の負担など、こういった問題に取り組んだ、課題、問題という、取組ということで評価できるのかなというところでしょうか。はい。ありがとうございます。

それ以外、いかがでしょうか。ぜひ。

○委員 ちょっと。

○会長 お願いします。

○委員 私も、今回この、一つはこういうふうの実施報告書とか、それ以外に何種類もこう作っていただいているというのが、本当にこの事業を、より地域に広げるのにはすばら

しいなと思いました。

もう一つはこの実施報告書の真ん中辺に、支援者の声のところで、天沼中学校の副校長さんのコメントが書いてあるんですけど、「初めに聞いたときにはハードルがめちゃくちゃ高いんで、無理ですよと申し上げました」と書いてあって、「でも、4年間付き合っ、ずっと一緒にやっていると、非常にパワフルで、ちゃんとできるんだと、すごいびっくりしました」みたいなことが書いてあるんで、この辺が本当に象徴している、この事業を象徴しているのかなと思うんですね。

で、これですばらしいのはすばらしいんですけど、多分今日のプレゼン、質疑応答だけでは、そういう詳細なところまでできないので、多分いろんな課題が見えてきていた、きているんだと思うんですよ、この中でも。一つは、学校を、練習会場だけではなく、どういう形でやるのがいいか、多分スケジュールの確認も、ここでも、各学校でやっぱり吹奏楽の発表会だの文化祭だの、何やかんやあるわけですから、そこを複数の学校を束ねてみんなで行うとなると、その辺のところもあると思いますし、さらにはこの各中学校別の参加者についても、全然、ゼロの中学もあるわけで、今日のご回答の中で吹奏楽の部員もたくさんいるし、ちゃんと指導をする先生もいるんで、そこはそこで学校内で一律にすべきではないというようなお話がありましたけど、多分そうなのか、どうなのかが、ここだけ、今の質疑応答では見えないので、そういういろいろ詳細なところをきちんと、「とにかくよかったね」だけで済ませないで、教育委員会のほうできちんと問題のリストアップをして、さらに調査が必要な部分があれば改善の方向性を考えるとかというようなことをぜひやっていただきたいなと思いました。

以上です。

○会長 はい。ありがとうございます。今回の報告のお時間も大変限られていたので、だからこそやっぱり見えない課題、表出されていない課題もあったのではないかと、そういったご指摘だったと思いますので、だからこそ担当課でももう少し詳細にしっかり洗い出してほしいという、そういったご意見だったのかなと思います。もう一つは、このような成果物の作成に対する、ご評価のご意見だと思います。はい。どうもありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 このことが提案された一番入口のときのことを思い出すと、まだ、所管課とNPOの見解が、少しちぐはぐだったところが見えてきていたかなと思います。所管のほうも、

地域移行ということについて今後どうしていくのかという姿があまりはつきりと見えていなくて、もやもやの中でこの提案があつて始められた。でもどうにか協働をしていく方向性を見出す手がかりをつかむ機会をというふうに私は解釈しました。その中で1年半たって、これはNPOの力もあるんでしょうけれども、大分、姿が見えてきたのかなという今日の報告でした。これからきっと、もっともっと改善しなければいけないことはたくさんあるんだと思うんです。教室のこともそうだし、楽器のメンテナンスの費用とかもかかるし、指導者さんをどうするのか、このままプロを高いお金で活用していったら大丈夫なのかとか、あと大学生をもっと巻き込んだほうがいいんじゃないとか、地域の人たちをどういうふうにサポートに入れるのかとか、いろんな問題がこれから出てくるのかなと思いますが、そこを一つ一つ今後クリアして、杉並区としての部活動支援、地域移行の一つの姿として見いだしていけるのかなという期待ができたので、そこはよかったと思いました。とにかく、部活動地域移行への入口として、起爆剤というか、そこが協働という形でうまくいったのかなというふうに、私は思いました。

○会長 はい。ありがとうございます。本当に、今回の課題自体が、こういった地域移行という課題自体、非常に比較的新しい取組というか課題ということで、行政のほうでも非常に手探りの中、スタートしていったところですね。けれども、徐々に信頼関係を構築しながら、本当に協働の在り方であるとともに認識・課題を共有して実現していくという、そういったプロセスなんかも非常によく見えたと思いますし、それに対して展望も見える活動だったんじゃないかというようなご指摘だったと思います。ありがとうございました。

ほかにもお聞かせいただければと思います。

○委員 各中学校にある吹奏楽部の活動は、運動会や文化祭などに向けた応援のために、すごく元気よく、何ていうんでしょう、活動を鼓舞する目的というのも一つにはあつて、とても元気よくやっているなと思うんですけど、やっぱり、ここのやり方というのは、子どもたちがそれぞれ自分たちが本当にやりたい楽器を吹けるようになりたいということで、子どもたちがやりたいということが始点になって始まっている。子どもたちのパートというの、偏りはあるけど、それに合わせて編曲もしているということをおっしゃっていて……

○会長 そうですね。

○委員 それで、私はすばらしいなと思いました。こどもまんなくて、こういうことな

んじゃないかなということを感じたところです。

やはり、枠組みとしては学校を拠点としてやっているので、場所や環境に制限はあると思いますが、今後、やはり大型の楽器の設置場所ですとか、あとは音響関係のことで地域に迷惑にならないなど、練習環境を考えると、やはり杉並公会堂のような、本格的な音響施設を持った場に移行できればますますいいんじゃないかなと思いました。学校でやるということにこだわらず、地域の社会資源を利用した活動ということで、地域文化の向上につながるんじゃないかなと考えたところです。

以上です。

○会長 はい。ありがとうございました。本当に子どもの意欲を尊重した取組だったのかなとも思いますし、やはり皆さん共通するのが、こう、見えない課題とか今回出ていない課題について、もう少ししっかり洗い出して、改善していただきたいということ。そして、最後ありましたように、本当にこれからいろんな団体や主体との広がりをつくって、子どもたちの活動の場をもっと広げていくなんていうご意見だったのかなと思いますね。はい。ありがとうございました。

私からも、本当に、ただよかったという評価で済ましてはいけない部分もちろんあるわけですので、そういったところは、今皆さんからご意見いただいたとおりなのかなと思っております。

一方で、この今回の事業そのものというよりは、私が聞いていて思ったことは、これだけ少子化が進んでいて、ここはやはり杉並区という、非常に大都市なんですけれども、もっと大変なのは地方ですね。本当に子どもが少なくなって、なおかつ人口減少で住民も少なくなる中で、やっぱり地方の子どもたちにはより一層こういう機会がもっともってなくなっていく。そして、こういう活動を行うNPOの団体すらも存在していなかったりして、何か地方と都心のそういう子どものいろいろな機会の差みたいなものが、これからもどんどん広がっていってしまうのではないかな。そんな危機感を持ちました。そうしたことを避けるためにも、私たち研究者もしっかり考えていく必要を感じました。一方で、こういった子どもたちの活動や思いを支えてくれるNPOが存在しているこの杉並区という自治体のすばらしさも再認識したところです。はい。お時間もそろそろですが、どうしても最後に言っておきたいよ、なんていうことはありますか。

はい。お願いします。

○委員 ありがとうございます。

ご提案のような意味でのコメントとなりますが、頂いているこの報告書の中でも、保護者の声、生徒の声、指導者の声、そして支援者の声というのはちゃんと拾ってくださっています。今回のこの取組が向き合おうとしている課題と踏まえると、これに加えて、ぜひ、2年目が終わるまでに、先生の声、学校の声もきちんと取っていただければと思いました。

○会長 そうですね。

○委員 もしかしたら既に拾われているかもしれないですが、2年目が終わったときの報告書には、それもぜひ入れていただきたいなというふうに思いました。学校や先生の声を拾うこと自体が学校や先生側の負担になったりもするので、難しいところはあると思いますが、せっきくの取組なので、実際に単独では吹奏楽部が成り立っていない学校の校長先生や先生、音楽の先生とか、あるいはこういう活動に実際に子どもたちが参加している学校の先生や校長先生とかにも、無理がない範囲で結構ですので、実際にこういう活動が動き出して、学校側からはどう見えているのか、どう感じているのかというのはとても大事なところだなと思いましたので、せっきくここまで取り組まれているのであれば、2年目はそこまで入れていただけたらなと思いました。

○会長 はい。貴重なご意見ありがとうございます。ちょっと、今後の期待したい点のところに、そういったご意見もぜひ踏まえたいと思います。私もちょっと聞いていて、学校や先生方の存在はどうなっているのかなというところはもう少し詳しく聞きたかったなと思ったところですので、その辺りもしっかり記録しておくべきと考えます。

いかがでしょうか、ほかは。

○委員 今後の期待したい点とかも話をしちゃっていいですか。すみません。

○会長 いいですよ。

○委員 すみません。そうですね、何かこの吹奏楽のワークショップの冊子があって、すごく細かくいろいろと書いてあってというところで、すごくいいものだったんですけど、何かICTの部分はどう活用していくのかというのが結構重要な点になっていくのかなというふうに思っていて。例えば、これを、今、冊子でこういうふうに作っていますが、これを例えば動画化するとかというだけでも、プロの声を届ける人数というのが、今の費用に対しての費用対効果というのは全然変わってくるのかなとも思いますし、そういった部分をどういうふうに活用していくのかというのが、この吹奏楽だけに限らず、地域の部活動をどういうふうにやっていくのか……

○会長 そうですね。

○委員 先ほど会長のほうからも言われていたような、地域の方、ほかの過疎の地域のほうにもどういうふうに届けていくかということも含めて、そういったところが重要なかなというふうに思いました。

○会長 はい。確かに。ありがとうございました。本当にこの団体のマネジメントの一つなのかなと思いますね、こういったICTの活用やデジタル化によって、より一層、この活動を広げていったり、協力者を得ていったりとか、そういったところにもつながるお話かと思えますね。はい。ありがとうございました。

○会長 はい。それでは、今回のテーマについての審議は終了といたしたいと思います。あと何か最後にご質問、ご意見などがありますでしょうか。よろしいでしょうか。

(なし)

○会長 はい。

それでは、事務局から何か連絡事項ございましたら、よろしくをお願いします。

○地域課長 はい。今回をもちまして、令和5年の1月からの2年の任期で、第11期の協議会を開催いたしました。今年の協働提案事業では、審査に結びつくまでの提案がなかったため、第11期の協議会は今回で最後となる予定でございます。皆さん、どうもありがとうございました。

そして、次回の協議会は、第12期ということで、来年の1月からを予定してございます。本協議会は引き続き3期までということでお願いしていますので、2期までの委員の方にはまた別途お願いをすることになろうかとは思いますが、本日3期で終了という委員の方がいらっしゃいます。もしよろしければ、最後に一言頂ければと思います。

○委員 ありがとうございます。はい、私も3期6年やらせていただきまして、まあ、皆さんおっしゃいますけど、この協議会って、本当に、しゃんしゃんではなくて、お互い言いたいことをかなり言うという会なんで、非常にありがたかったと思いますし、そういう形で地域のいろいろな活動を支援する役割も果たせて、その一員としてやらせていただいたことは非常にありがたかったと思っております。

会議は今回でおしまいということで、この吹奏楽も今度11月10日にまた発表会を杉並公会堂でやるということなんで、そういうところなんかも、はい、見に行かせていただいたときにまた顔を合わせるかもしれませんけども、一応これでおしまいということで、ありがとうございました。

やっぱり、ずっと言ってきましたけど、ただこの助成のほうは、NPO法人か、あとは地域大学卒業生5人でつくっている任意団体というこの範囲なんですけど、NPO法人は別として、任意団体の形でやっている団体は区内にいっぱい、非常に多数あって、頑張っているところもいっぱいあると思いますんで、ぜひ、将来的には、地域大学の卒業生だけではなくて、一定の基準点がちゃんとしているところにはちゃんと助成金の対象にするとかいった形で、範囲を広げて、活動を、事業を続けていっていただけるとありがたいなと思っております。

以上です。どうもありがとうございました。

(拍手)

○会長 はい。ありがとうございました。私も、杉並区という地域の実情や在り方など、本当にご意見から学ばせていただいたところでもございます。本当にありがとうございました。

一方で、この期ですけれども、私も初めて会長という立場でやらせていただきました。いろいろと未熟なところもあり、皆さんには支えていただきまして、どうもありがとうございました。

(なし)

○会長 では、これもちまして、第9回杉並区NPO等活動推進協議会を閉会といたします。皆さん、本当に2年間、どうもお疲れさまでした。またどうぞよろしく願いいたします。お元気でお過ごしください。終わりいたします。